

ア  
ー  
ト  
読む

矢代幸雄

稲賀繁美著・ミネルヴァ書房・4950円

美術史家で評論家、また奈良の大和文華館初代館長を務めた矢代幸雄(1890~1975年)の評伝。

若き日にインドの詩人、タゴールの通訳をしたことから、実業家で美術品収集家としても知られる原三溪の知遇を得、日本画家や彫刻家をはじめ、和

辻哲郎ら哲学者たちとも知り合った矢代は、欧州留学後、ポッティチェリポッティチェリの研究で注目を集めた。

帰国後は美術研究所の設立に尽力。また、日本や東洋の美術にも研究範囲を広げ、昭和に入ってから海外に向向いて日本美術の紹介につとめた。戦

海外に日本美術紹介



時中、美術研究所所長や東京美術学校教授を退いたが、戦後は再び欧米で日本の伝統的な美術を広める活動を行い、文化功労者にも選ばれた。

著書「西洋美術史講話」で「愛することを知らぬ『物識り』、愛することを妨げる『物識り』は藝術の最大の敵」と記し、「藝術に対する愛」を貫いた矢代の生涯を丁寧に追った労作。